

八二七番

春はるされば 木末こぬれがく隠りて うぐひすそ 鳴なきて去いぬ
なる 梅うめが下しうえ枝えに

八二八番

人ひとごとに 折をりかざしつつ 遊あそべども いやめづ
らしき 梅うめの花はなかも

八二九番

梅うめの花はな 咲さきて散ちりなば 桜さくら花はな 継つぎて咲さくべく
なりにてあらずや

八三〇番

万代よろづよに 年としは来き経ふとも 梅うめの花はな 絶たゆることなく
咲さき渡わたるべし